

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和4年度病害虫発生予報第2号(5月)
令和4年度病害虫発生予察注意報第1号

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和4年度病害虫発生予報第2号(5月)

令和4年4月28日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	やや多い	県全域	前年6月下旬の本田発生量が多い 前年の予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	赤かび病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 4月中旬以降に降水量が多い 5月の降水量は平年並か多い	± + ±~+
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[イネ・イネミズゾウムシ]

Dr. オリゼフェルテラ粒剤、スクラム箱粒剤などを用いて箱施薬を行いましょう。

[ムギ類・赤かび病]

本日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、薬剤散布を行う等、防除を行いましょう。詳細は、4月4日発表の「スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	3月の越冬発病葉率は高い	+
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量は平年並 5月の気温は平年並か高い	± ±～+
ナシ	黒星病	平年並	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率はやや少ない 4月下旬の発病葉率はやや少ない 5月の降水量は平年並か多い 前年の発生量は多い	- - ±～+ +
	アブラムシ類	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の気温は平年並か高い 5月の降水量は平年並か多い	+ ±～+ ±～-
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝は確認していない 5月の降水量は平年並か多い	- ±～+
	せん孔細菌病	平年並	県全域	前年の発生量はやや少ない 4月下旬の発病枝率は少ない 4月中旬以降に降水量が多い 5月の降水量は平年並か多い	- - + ±～+
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬現在、被害を確認していない（平年並） フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か多い	± ±～+
	べと病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並か多い	+ ±～+
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は多い 5月の降水量は平年並か多い	+ ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世代成虫密度はやや多い	+

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

3月18日発表の「カンキツそうか病情報第1号（ウンシュウミカン）」を参考にしてください。

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

トモノールSなどで防除しましょう。なお、カンキツそうか病防除などで開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上空けるようにしましょう。

[ナシ・アブラムシ類]

ウララDF、サイアノックス水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシクイ]

越冬世代成虫の誘殺数が多かったため、次世代以降の誘殺数も多くなる可能性があります。トラップ調査データ（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参考に、早めの防除を心がけましょう。

[ブドウ・べと病]

アリエッティC水和剤やジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

アリエッティC水和剤やジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[カキ・炭疽病]

ベンレート水和剤、オンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

4月4日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

ナシの黒星病について、4月下旬の発病葉率はやや少ない状況でした。しかし、前年の発生量が多く、本病原菌の越冬量は多いと考えられます。さらに、4月28日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予測されていることから、今後多発する可能性があります。ほ場を確認して発生状況に注意するとともに、発病葉や発病果は見つけ次第除去しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期等については、本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参照してください。

カイガラムシ類の防除適期は、ナシマルカイガラムシは5月20日から5月27日（前年と比べてやや早い）、フジコナカイガラムシは5月24日から6月2日（前年と比べてやや早い）と予測しています。今後の気温経過で発生ピーク日が前後するため、5月中旬頃にこれら害虫について、最新の気象データを用いて計算し直し、防除適期に関する情報を提供する予定です。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は平年並か高い 5月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋ ±～－
タマネギ	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
トマト (施設)	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の日照時間は平年並か少ない	－ ±～＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	—
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の日照時間は平年並か少ない	— ±～+
	灰色かび病	やが多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	アザミウマ類	少ない	県全域	4月下旬の発生量は少ない	—

・防除対策

[キュウリ・灰色かび病]

ベルコート水和剤やフルピカフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

トマトで灰色かび病の発生が多いほ場があります。果菜類の灰色かび病は、多湿条件で多発するので、過剰なかん水を避け、換気を図るなど施設内が多湿にならないようにしましょう。発病が見られるほ場では、発病果や発病葉を速やかに取り除き適切に処分しましょう。

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）及びキュウリ退緑黄化病（CCYV）、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミが媒介するトマト黄化病（病原：TOCV）が発生しているほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、親株床でアザミウマ類やアブラムシ類の発生に注意し、発生を認めたら防除を徹底しましょう。また、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。今後はアザミウマ類やハダニ類が増加する時期になります。本ぽと親株床を含めた防除に努めましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

【参考】東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%